

2022年度大学入試展開図

新型コロナウイルス感染症収束の見通し立たず

(対面イベントの自粛、長距離移動への敬遠傾向、経済への深刻な影響が依然として継続)

2022年度入試動向(秋期～冬期(年内))

共通テスト志願者数…**4年連続減少**(現役=前年度並、既卒=5%減少) コロナ禍の中で、浪人および再受験生が減少

総合型選抜・学校推薦型選抜志願者数…**中下位層の一般選抜敬遠傾向が顕著**

「指定校推薦」に人気、総合型選抜は伸び悩み

…コロナ禍で課外活動の機会が失われた世代、大学に対しての「売り物」がない！

2022年度共通テスト実施結果

受験率回復…(2020年度)94.51%⇒(2021年度)90.45%(-4.06ポイント)⇒(2022年度)92.08%(+1.63ポイント)

平均点ダウンの科目が目立つ、特に「**数学ショック!**」が受験生を直撃!!

<DOWN>生物(-23.8点)、数学I・A(-19.7点)、数学II・B(-16.9点)、日本史B(-11.5点)、化学(-10.0点)など

<UP>英語リスニング(+3.3点)、化学基礎(+3.1点)、英語リーディング(+3.0点)、現代社会(+2.4点)、世界史B(+2.3点)など ※受験者数1万人以上

5教科7(8)科目<900点満点>予想平均点

文系…508点(-44点)、理系…513点(-59点)…得点率は文系56%、理系57%に留まった。成績上位層にも大きな影響を与えた。

出題傾向は「読解力」や「思考力、判断力」を必要とし、「実用的な素材」を用いた受験生にとっては馴染みのない出題が多く見られた。

国公立大出願状況

志願者数…前年度対比**指数101**、微増だが**3年ぶり増加**

<理由>①共通テスト受験者数増加

②コロナ禍による移動への敬遠傾向の緩和(特に、中国地方)

③共通テスト難化でも難関大への強気な出願

■系統別動向

スポーツ・健康、農・水産が増加、国際関係、薬、人文科学、芸術、理がやや増加。生活科学、社会、総合科学が減少、教員養成・教育、歯がやや減少。これら以外の7系統は前年度並。

■地区別動向

前期は四国が増加、中国が減少、東海がやや減少。他は前年度並。後期は東北、甲信越・北陸が増加、四国、北海道、首都圏、九州・沖縄がやや増加。北関東が減少、近畿、中国がやや減少。東海は前年度並。

■データネット(共通テスト自己採点集計)目標ライン別動向

前期は目標ライン70~75%のグループが増加。75~80%のグループが減少。他は前年度並。

後期は目標ライン75~80%のグループ、65%未満のグループがやや増加。他は前年度並。

■難関大動向

◎難関国立10大学(旧帝大+東工大+一橋大+神戸大)

前期は全体では微増。大阪大、北海道大、東京大、東京工業大がやや増加、名古屋大がやや減少、他は前年度並。

後期は全体ではやや増加で3年ぶりに増加。募集人員が多い北海道大は大幅増加、九州大はやや増加。

◎医学部医学科

前期は微増だが2年連続増加、後期も微増だが3年ぶりに増加。

一般選抜は 文低理高

私立大出願状況

志願者数…前年度対比**指数100**、前年度並(反動増は無し)

<理由>①コロナ禍の中での併願校数を絞り込み、長距離移動を避けるという極端な志望動向が継続。

②共通テスト難化で、中堅大の「事後出願」での共通テスト利用方式への敬遠傾向。

③2021年度入試で導入された、一部難関大の新しい共通テスト併用方式への敬遠傾向が継続。

④中下位大学での「特別選抜ソフト」が強まる。

■系統別動向

工、法、国際関係、薬、歯、理がやや増加。外国語が大幅減少、生活科学、教員養成・教育が減少、スポーツ・健康、社会、保健衛生、経済・経営・商がやや減少。これら以外の5系統は前年度並。

■地区別動向

志願者数は北海道、東北、四国でやや増加。甲信越・北陸、中国、北関東、東海でやや減少。首都圏、近畿、九州・沖縄は前年度並。合格者数は首都圏で増加、北海道、東北、近畿でやや増加。他は前年度並。大都市圏では首都圏の競争緩和が目立つ。

■模試合格判定ライングループ別動向

志願者数は文系では、Aグループが微増。他の4グループはいずれも減少。理系では、Cグループは増加、A・Bグループはやや増加だが、D・Eグループは減少。

合格者数は文理ともA~Dグループは増加だが、Eグループは減少で、競争が緩和。

実質倍率は文系では、全グループでダウン。理系では、A~Dグループで競争緩和、Eグループは実質的には「全入状態」

【グループ分け基準(③SB 共テ模試のB判定ラインによる分類)】

A=65以上、B=60~65、C=55~60、D=50~55、E=50未満

2022年度入試のキーワード「CCB入試」

①**Covid-19** コロナ禍の影響が継続

私立大出願校数絞込み、遠距離移動回避、安全志向、東海道・山陽新幹線沿線では移動回避が緩和

②**Common Test** 共通テスト平均点大幅ダウン

私立大共通テスト利用方式敬遠(国公立大併願者を除く)、私立大共通テスト利用方式「事後出願」は明暗分ける

③**Bipolarization** 2極化 (強気な志望⇔一般選抜回避)

最難関大の志願者数増加

「逃げない成績上位層」に加えて、共通テスト平均点ダウンで難関国公立大から難関私立大への併願が増加

合格目標偏差値55未満の私立大志願者数の減少が目立つ

一般選抜回避⇒(指定校)推薦や総合型(AO)選抜へ